



SENSHOJI  
YUKARI NEWSLETTER  
1994-2025

ゆかり通信

VOL.330

令和 7 年 7 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴竈山 千正寺

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2025年千正寺カレンダー 7・8月の言葉 I



「またね」と言った友がおり、  
「おかえり」と迎えてくれる母がいる。  
お浄土はもう賑やかだ。

仏教には色々なご宗旨がありますが、この命終えた次の世で、「また会おうね」「おかえり」と言い合えることは、本当に稀なのです。浄土真宗の私達が、「必ずまた会える」と言い切れるのは、阿弥陀経というお経さまに「俱会一処 = 俱(とも)に一つの処(ところ)で会う」というお言葉があるからなのです。ですから、先だって行かれた人々は「死んで墓の下で眠っている」のではなく、阿弥陀様と同じ尊い仏様となって、ご縁のある人々を導くお手伝いをさせて頂いているんですね。

兄と僕たち兄弟を育ててくれたのは、高知県の父方の祖父母でした。祖父は、お寺生まれではなかったのですが、50歳を過ぎてから独学で学び資格を取り、時々頼まれたお寺でお説教をする布教使でした。70歳で祖母が亡くなり、祖父は一人で、布教の傍ら、家事、洗濯、家庭菜園をして、僕達を育ててくれました。

それから20年以上もたった頃、大阪でご法事をした時のことです。95歳の祖父と、東京に住む91歳の妹が、久しぶりに再会しました。別れる時、祖父「また会おうな」  
妹「はい兄さん。また会いましょうね」と言い合っていました。

東京と大阪、離れて住む90代の兄妹が、また会えるとは、僕にはとても思えなかったんです。でもすぐ「これは、俱会一処のことなんだな…」と気がつきました。

1年後「妹が往生しました」との連絡が入りました。祖父は電話を切ってから、衣に着替え、お内仏に向かい、長い間、阿弥陀経をお勤めしていました。きっと、悲しかったんだと思います。

数日したある日、祖父はポツリとこう言いました。「お浄土が、随分と賑やかになったな～」そう言いながら寂しそうに微笑んでいました。阿弥陀さまのお陰で、お浄土に生まれられるのは有難い。でも、今直ぐに行きたい訳ではないですよ(汗)。でも、力なくこの命が終る時、懐かしい人々が、「おかえり」「また会えたね」と迎えて下さるんですね。

(本文：桜庭尚吾法務員)